

第7回

丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会

日 時：令和5年10月2日（月）

13：30～

場 所：丸森町役場 302会議室

次 第

1 開 会

2 部会長あいさつ

3 報告

- (1) 第3回検討委員会について
- (2) 建築プロポーザルについて
- (3) 今後の検討体制について

4 議事

- (1) 河川防災ステーションの施設レイアウトについて
- (2) かわまちづくりについて
- (3) 防災教育・防災学習について
- (4) その他

5 閉 会

資料—1 配席図

資料—2 委員名簿

資料—3 今後のスケジュール

資料—4 第3回検討委員会説明資料

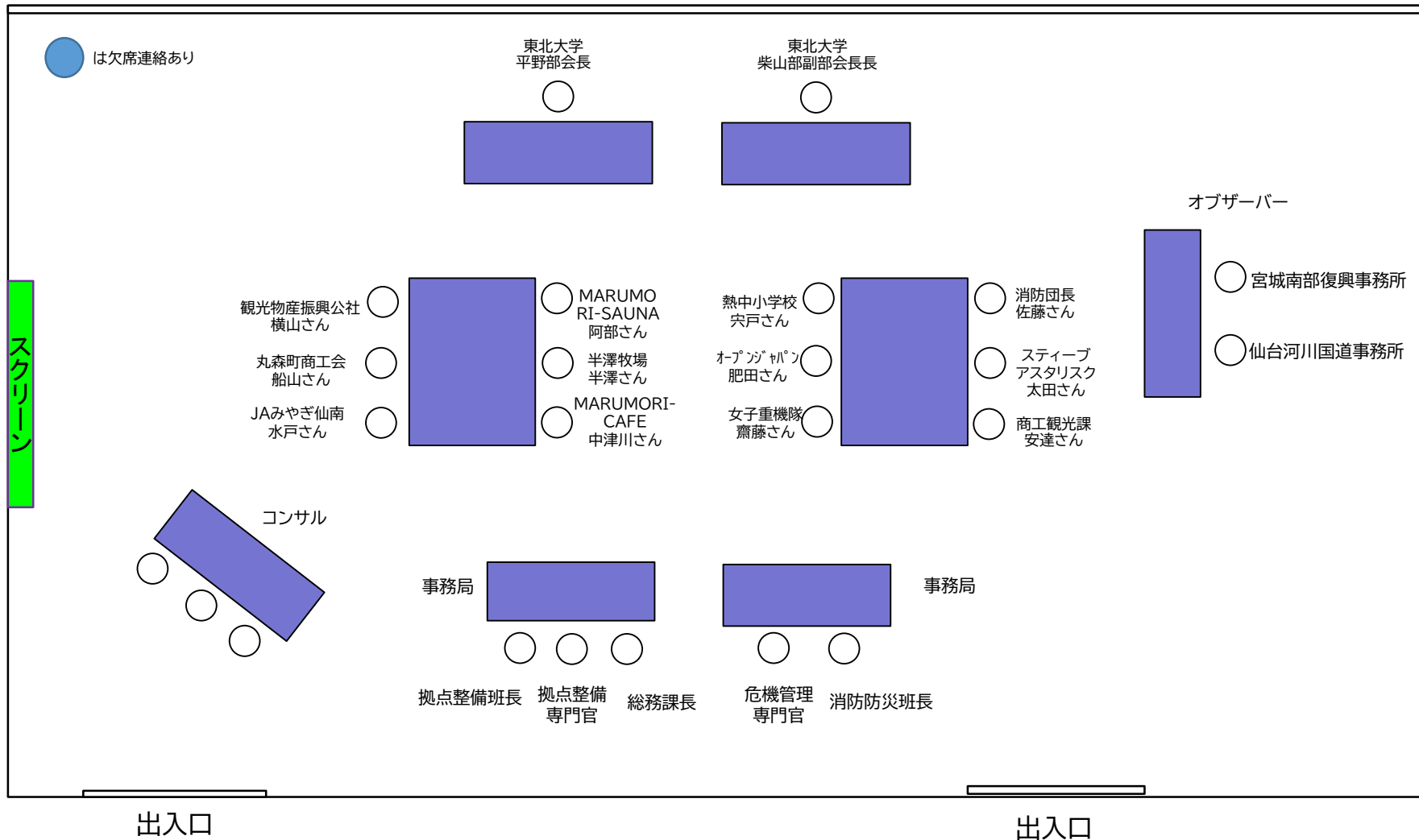
資料—5 第3回検討委員会の意見と対応

資料—6 第7回検討部会説明資料

丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会 配席図

資料-1

会場:丸森町役場 3階 302会議室



丸森地区河川防災ステーション利活用検討部会 名簿（令和5年度） 資料-2

No	団体名	所属等	氏名	備考
1	東北大学	災害科学国際研究所准教授	平野 勝也	
2	東北大学	災害科学国際研究所准教授	柴山 明寛	新
3	丸森町観光物産振興公社	理事長	横山 博昭	
4	丸森町商工会	副会長	船山 俊一	
5	丸森町消防団	団長	佐藤 隆	
6	熱中小学校 丸森復興分校	教頭	穴戸 克美	
7	オープンジャパン	副代表	肥田 浩	
8	まるもり女子重機隊		斎藤 百合子	
9	MARUMORI-SAUNA株式会社 (株式会社 伊具緑化)	代表取締役	阿部 秀一	
10	(有) 半澤牧場	代表取締役社長	半澤 善幸	
11	J Aみやぎ仙南	丸森地区事業本部長	水戸 慎太郎	
12	丸森町商工観光課	課長補佐	安達 勉	
13	株式会社フードスタジオマンマ (MARUIMORI CAFE)	代表取締役社長	中津川 かおり	
14	株式会社スティーブアスタリスク	代表取締役社長	太田 伸志	新

3 今後のスケジュール

① 整備スケジュール

事業		年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
防災拠点の整備									
設計	防災拠点(造成、資材)	国	予備設計	詳細設計					
	水防センター	町		基本構想・計画	基本設計・実施設計				
工事	防災拠点(造成、資材)	国	用地確保	盛土工	舗装・排水工 資材配置	河川防災ステーション 利用開始			
	水防センター	町				水防センター建設	水防センター 利用開始		
※ 国		国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所							
※ 町		宮城県丸森町							

② 検討部会及びかわまちづくりスケジュール

年度	R4年度			R5年度												R6年度												R7年度												R8年度											
	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2
検討委員会・部会								委員会①								委員会②																																			
事業者調整																																																			
水防センター																																																			
かわまちづくり																																																			
予算(国交省)																																																			



水防センターのイメージ：令和元年10月の台風19号の際の人命救助の拠点
緊急援助隊（消防・警察）、自衛隊が人命救助のための拠点として利用したのが館矢間まちづくりセンターです。緊急車両数十台で、隊員が集結し、指揮系統を整理してこの場所から救助現場に向かいました。



観光交流センターの飲食・物販コーナーのイメージ（川が見える）
HASSENBA（熊本県人吉市、球磨川くだり発船場）/https://note.com/irukaoyaji/n/n1deb33fa1411



フットパス・ウォーキングのイメージ
ブラマルモリ・丸森中心部編『町場替えと災害』のモニターツアー
地元ガイド役は斎藤信一さん。鳥屋館（現「鳥屋嶺神社」周辺）中心に町場が配置されたが、繰り返される水害対策のため、1801年から町場替えが行われた。

— 目次 —

- (1) 河川防災ステーション利活用方針 1
- (2) (仮称) 川の駅の整備方針 3
- (3) 河川防災ステーションの施設レイアウト 6
- (4) かわまちづくり計画の検討 7
- (5) かわまちづくり計画の活用 11
- (6) 対岸高水敷の樹木伐採 13



民間事業者によるサウナ施設のイメージ
不動尊公園内のMARUMORI-SAUNA



民間事業者による船下りのイメージ
阿武隈ライン船下り

(1) 河川防災ステーション利活用方針

▶ 平常時の利活用方法については、他の類似施設との差別化を図りながら、「健康」と「アウトドア」をキーワードにした利活用アイデアを展開し、町内観光施設への周遊につながる賑わいづくりの拠点（ゲートウェイ）として整備する。

キーワード

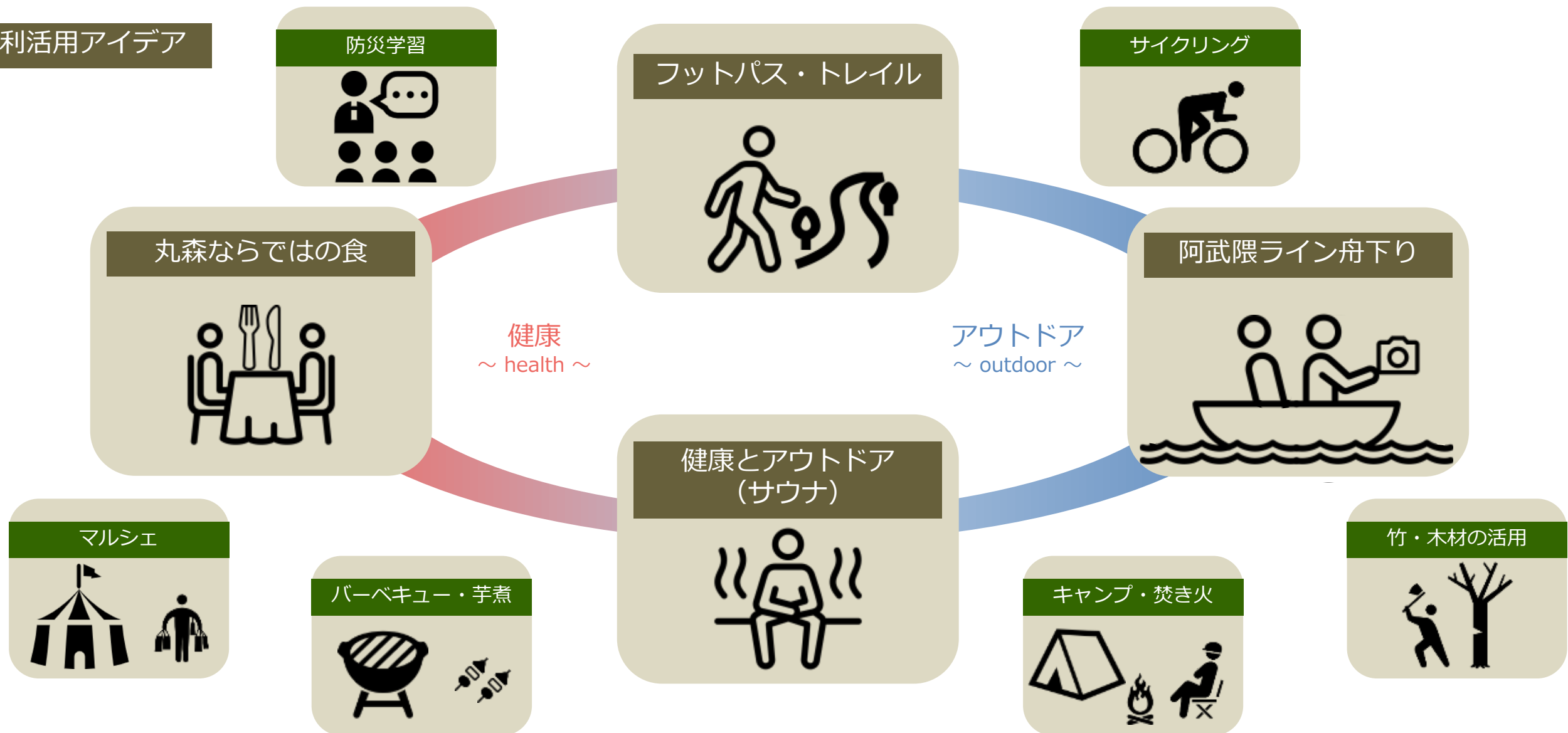
健康 ~ health ~

&

アウトドア ~ outdoor ~

訪れた人の健康増進に寄与するような野外アクティビティ等、丸森の豊かな自然を活かした利活用を展開する

利活用アイデア



(1) 河川防災ステーション利活用方針 イメージパース (平常時)

- 水防センターは、河川防災ステーションの防災機能を確保するとともに、町のゲートウェイとして観光交流センターおよび民間商業施設を整備。
- 水防センター周辺には、平常時のにぎわいを創出する空間、イベント広場、眺望広場を整備。また、芝生広場、資材置き場についても平常時利用に配慮した空間デザインを行う。
- 周辺には周遊につながる機能として、阿武隈ライン舟下りの船着き場やフットパスの拠点、ルートを整備。

水防センター・観光交流センター

- ・防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、サウナ、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
- ・敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

居久根の再現 (緑化)

高低木を織り交ぜた樹木の植栽

川の駅

河川敷公園としての利用

芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しむスペース

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線 (階段・スロープ)

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

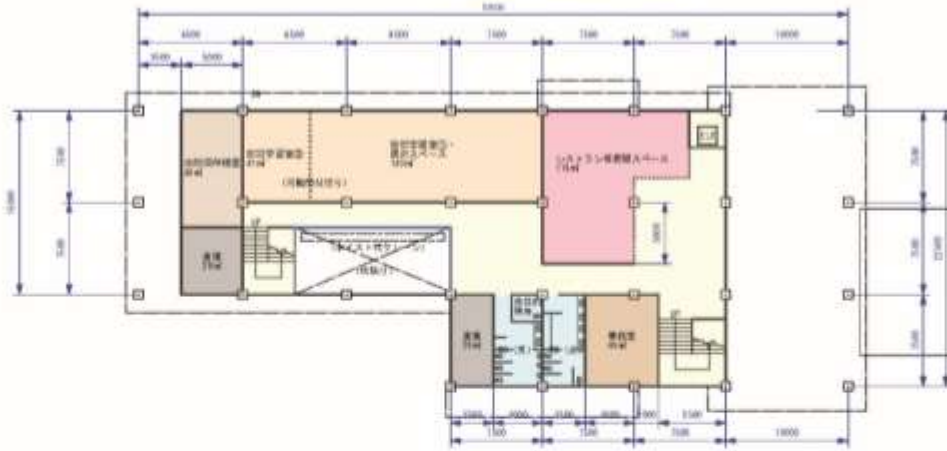
阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

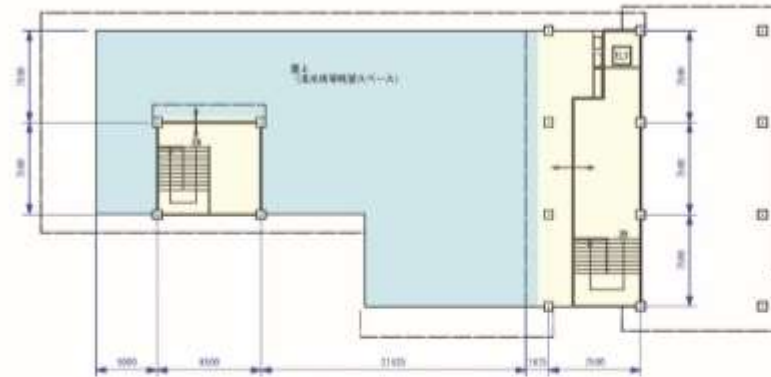
(2) (仮称)川の駅(水防センター+観光交流センター)の整備方針

- 川の駅は、水防センターに、町全体の観光案内機能と飲食・物販の商業機能を併設した建物。
(ただし、一部民間施設は別棟で整備を予定。)
- 必要な諸室と規模を設定。

2階ブロックプラン

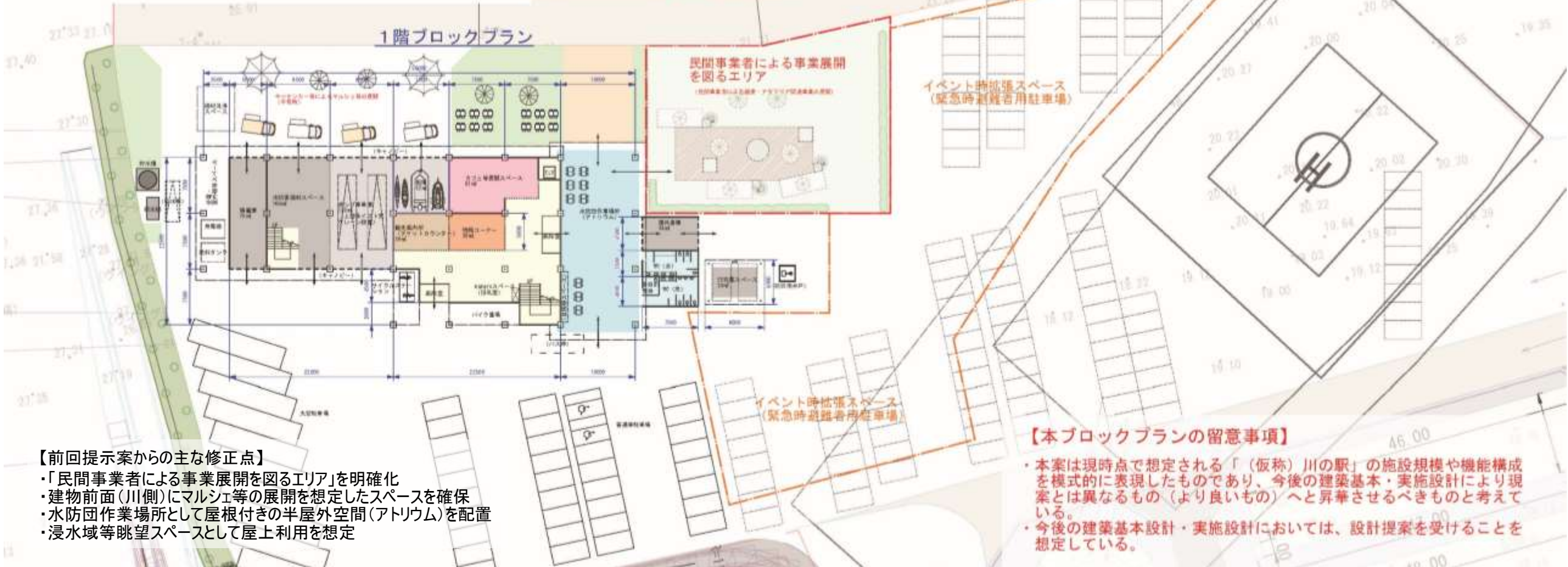


3階ブロックプラン



建築面積 : 1,297.50㎡
 延床面積 : 2,320.07㎡
 (1階 : 1,297.50㎡、2階 : 766.13㎡、3階 : 256.44㎡)

1階ブロックプラン



【前回提示案からの主な修正点】

- ・「民間事業者による事業展開を図るエリア」を明確化
- ・建物前面(川側)にマルシェ等の展開を想定したスペースを確保
- ・水防団作業場所として屋根付きの半屋外空間(アトリウム)を配置
- ・浸水域等眺望スペースとして屋上利用を想定

【本ブロックプランの留意事項】

- ・本案は現時点で想定される「(仮称)川の駅」の施設規模や機能構成を模式的に表現したものであり、今後の建築基本・実施設計により現実とは異なるもの(より良いもの)へと昇華させるべきものと考えている。
- ・今後の建築基本設計・実施設計においては、設計提案を受けることを想定している。

(2) (仮称)川の駅(水防センター+観光交流センター)の整備方針

(建物の建設および公共・民間の費用負担)

- 建築はS造を想定。建築費は、現在の規模で約9.4億円を見込んでいる。
- 建物は、テナント部分をアロケーションし、防災関連の補助事業を導入する予定。
- テナント部分は、町の起債等で整備し、民間事業者に一定程度の負担をお願いする予定。

階	諸室名	面積(m ²)	面積(坪)	災害時の機能	平常時の機能
1階	観光案内所(チケット売り場)	38	11.5	-	やまゆり館の機能を移転
	カフェ等展開スペース	81	24.5	炊き出し、要配慮者の受け入れ	テナントA
	物販コーナー	38	11.5	-	テナントB
	水防資機材スペース	104	31.5	水防資機材を保管	水防資機材を保管
	ポンプ車庫	128	38.7	出動後は支援物資の集配拠点	町有ポンプ車2台
	備蓄庫	75	22.7	毛布・飲食物など	支援物資の集配拠点
	艇庫	52	15.7	救助用の艇	SUP・カヌー
	屋外用倉庫	34	10.3	-	日よけやイス・テーブルを保管
	水防団作業場所(アトリウム)	200	60.5	水防活動の作業場所	川への視線の抜けを意識した通路
	その他(エントランスホール、トイレ・シャワーなど)	547.5	165.6	一時避難者にも開放	-
	計	1297.5	392.5		
2階	レストラン等展開スペース	119	36.0	要配慮者の受け入れ	テナントC
	展示ホール(防災学習室①)	143	43.3	水防団指令室	防災学習展示
	倉庫①	28	8.5	-	会議室の備品を収納
	会議室(防災学習室②)	41	12.4	打合せスペース	イベントの打合せや地域の集まり
	事務室	45	13.6	-	テナントD
	水防団待機室	48	14.5	水防団員の仮眠・休憩室	水防団訓練時の打合せ
	倉庫②	26	7.9	毛布・飲食物など	支援物資の集配拠点
	その他(トイレなど)	316.13	95.6	-	-
	計	766.1	231.7		
3階	テナントが家賃負担する諸室 計	321	97.1		
	合計	2320	701.8		

(施設の管理運営手法)

- 本施設は、災害時の水防拠点としての機能以外に、平常時のにぎわいづくりに寄与し、町内周遊につながるゲートウェイとして、町内外から誘客につながるアイデアを実践していく施設であることから、民間事業者等のノウハウや有効な発想を取り入れ、効果的かつ効率的な運営が求められる。

このため、本施設については、民間事業者等の公募又はまちづくり会社の設立も視野に入れながら、指定管理者制度を活用した「公設民営」方式による管理運営を想定している。

(「都市・地域再生等利用区域」制度を活用した事業展開)

- 「河川防災ステーション」として整備される区域の内「備蓄資材置き場」を除いたエリア、および「かわまちづくり等」で河岸部の階段護岸などのエリアについて「都市・地域再生等利用区域」指定を検討。
- 丸森町は、仙台河川国道事務所(河川管理者)と、区域指定の要望・許可、占用許可の申請・許可の手続きを行う。
- 丸森町や指定管理者は、このエリアで、アウトドア事業、飲食・物販事業、舟運事業、かわまち歩き事業などを展開する民間事業者と、「施設使用契約、維持管理に関する覚書」を締結する。民間事業者は、このような手続きを踏んで、河川という公共空間で営業活動が可能となる。

●都市・地域再生等利用区域の指定を受けた管理運営の事例)



(2) (仮称)川の駅(水防センター+観光交流センター)の整備方針

(防災学習の考え方)

- 令和元年10月の台風19号による災害(土石流、氾濫・浸水)をテーマとする。
- 丸森町に暮らす住民・子供たちを主対象とし、河川の氾濫や土砂災害のしくみ、安全確保の手段や被災後の復旧方法を身につけることを目的とする。
- 川の駅に設ける展示ホール(防災学習室)は、広報・学習の拠点とする。
- 屋外の被災箇所、防災事業(河川堤防整備、遊砂地整備、河川防災ステーション整備)を見学するルートを設定する。

(丸森町の小・中学生(2021年)と展示ホールの規模)

- 小学校は8校、各学年1クラス、少人数のため学級を統合している学校が3校。最大は館矢間小学校5年生の37人。
- 中学校は丸森中学校が1校。最大では3年生の36人。
- 防災学習室の規模は、生徒数を参考に検討する。

(語り部を育成し、県内の小・中学生の誘客を図る)

- 水害や土砂災害は、身近で起きる災害。その特徴を踏まえ、県内の小・中学生の遠足や校外学習を誘致する。

34 開上震災を伝える会
「震災からの学び・教訓を伝えます」 50-150人

FAX 022-382-6210
TEL 090-3583-1359
Eメール yuriage1@gmail.com
http://yuriage1.blog.fc2.com/

東日本大震災による壊滅的な被害を受け、復興を遂げる名取市開上を震災から学ぶ場として、震災から10年を記念して、開上地区の被災者や関係者の写真を使い、6.3mの特別展示室で、震災復興の歴史や見学します。

■期間/通年 ■時間/9:30-17:00(9月-11月)10:00-16:00(12月-8月) ■料金/一般400円 高校生300円 小中学生200円(20歳以上100円引) ※開上へバスで20分 ■休日/月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ■住所/山元町開上4-22番地2

38 山元町震災遺構 中浜小学校
「被災した校舎に立ち入って見学」 1-120人

TEL 0223-23-1171
http://www.town.yamamoto.miyagi.jp/

震災発生直後、津波が到達したものの、児童60人の命を守り抜いた校舎を被災したままの状態で一般公開。津波の脅威を知るだけでなく、映像や展示物などから避難行動を考え、防災意識を高め、災害に備えるための学びの場として、見学体験の工夫などが評価され、グッドデザイン賞を受賞した唯一の震災遺構。

■期間/通年 ■時間/9:30-16:30(入館16:00まで) ■料金/一般400円 高校生300円 小中学生200円(20歳以上100円引) ※開上へバスで20分 ■休日/月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 ■住所/山元町開上4-22番地2

35 津波復興祈念資料館「開上の記憶」
「津波で学んだことは忘れない」 1-200人

TEL 022-738-9221 (NPO法人 開上地区復興推進委員会)
http://tsunami-memorial.org

開上の記憶は東日本大震災から考える「いのちの大切さ」を伝える津波復興祈念資料館です。今回の震災でたくさんの命がなくなり、痛切に知らしめられたいのちの大切さ。次世代を担う子どもたちへ、地元で被災した語り部による「開上案内ガイド」や「語り部講話」などの防災学習を積極的に実施しています。

■期間/通年 ■時間/10:00-15:00(月火水金土) 9:00-15:00(日祝) ■料金/入館料無料、プログラム45,000円〜 ■休日/木、年末年始(11日は水でも開催) ■住所/宮城県名取市開上5丁目23-20

39 やまもと語りべの会
「山元の歴史を全国に発信」～震災を語り継ぎながら～

TEL 070-2032-1000
Eメール yamamotokataribe1000@web.ne.jp

震災遺構としての震災遺構中浜小学校が開設した山元案内として町内のガイドも展開しながら中浜小では、震災遺構中浜小から歴史を語り、様々な防災に役立つ知識を知り、正しい知識をもつための一手になる貴重な時間です。また、全国へ、歴史を語り継ぐ防災学習などの展開を視野です。震災遺構中浜小は入館料など不要。

■期間/通年 ■時間/90分以上(要相談) ■料金/自家用車4,000円〜、大型バス7,000円など、他は相談。 ■休日/不定休 ■住所/山元事務所(山元町開上4-22番地)

防災学習に関する意見(住民説明会より)

- ・防災かまどベンチ。普段は公園のベンチとして使い、椅子を上げると「かまど」になる。炊き出しの訓練や東北の文化となっている芋煮会など、を通じて参加者同士がコミュニケーションできる訓練ができればいいのでは。
- ・普段から人が集まり、利用しやすい工夫。防火かまどベンチは、平時は使えないようなところもある。普段から使えないと災害時に使えない。子供たちの防災キャンプなど、学習の場としても平時から使える工夫が必要と思う。
- ・防災学習は知ることだと思う。丸森で起きた災害を分かりやすく展示したりすることも必要だと思う。
- ・防災には情報収集が大事である。国、県、町では、インターネットを通じた分かりやすい情報を発信しているが、見れない住民も多くいる。こういった情報を住民が自ら入手できるような防災学習も必要ではないか。
- ・展示室は、写真や記録の展示もいいが、子供たちの体験として、土のうをつめる、一輪車をつかう、バケツリレーをしてもとか防災の知識を実体験できるようにし、年一回、これらを取り入れた防災運動会をやってみるなど、マスコミが食いつき、町外の人々が丸森に行ってみたいとなれば、子供たちといっしょに大人もくる。キッズパークの防災版のような体験施設になればとも思います。
- ・定期的開催するマルシェや軽トラ市などのイベントの際に、重機の体験学習を取り入れることも考えられる。

防災学習展示の事例(宮城南部復興事務所 制作)



防災学習用DVD



防災学習用立体地図

防災学習の事例



防災学習(他事例)



水防活動訓練(他事例)



イベント(防災フェスタ)

(3) 河川防災ステーションの施設レイアウト 備蓄資材置き場の修景デザインおよび土砂置き場のアースデザイン

- 備蓄資材置き場および土砂置き場については、平常時利活用に配慮したデザインとする。
- 1. 備蓄土砂を地中埋設としている箇所について、子どもの遊び場となるように起伏をつけた仕上げとし、ところどころに緑陰を設ける。
- 2. 観光交流施設の平常時利活用のため、資材置き場は地盤を下げ、手前に土塁を設けることで備蓄資材を目隠しする。樹木、薪置き場やフェンスの設置を含め、そのデザイン性に留意する。

備蓄土砂の仕上げ

- ◆ 備蓄土砂は、地中に埋設し、上面を平常時利用可能としている。非常時の作業を考慮し、場内道路側と備蓄土砂周囲には重機が走行可能なトラфикаビリティを確保する。
- ◆ 備蓄土砂及び周辺の起伏形状について、案（下図黄色）を示す。上面の利用用途にあわせて「平場の確保が必要な面積」を決定したうえで起伏形状を検討する。

備蓄資材置き場の目隠し

・視点場①

地盤高レベル、土塁・高木なし



地盤高-1.8m、土塁・高木あり

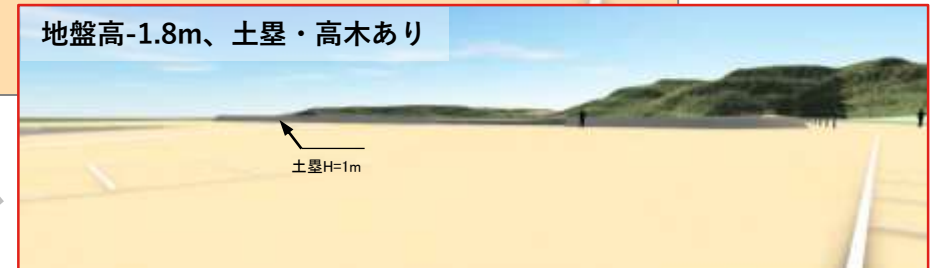


・視点場②

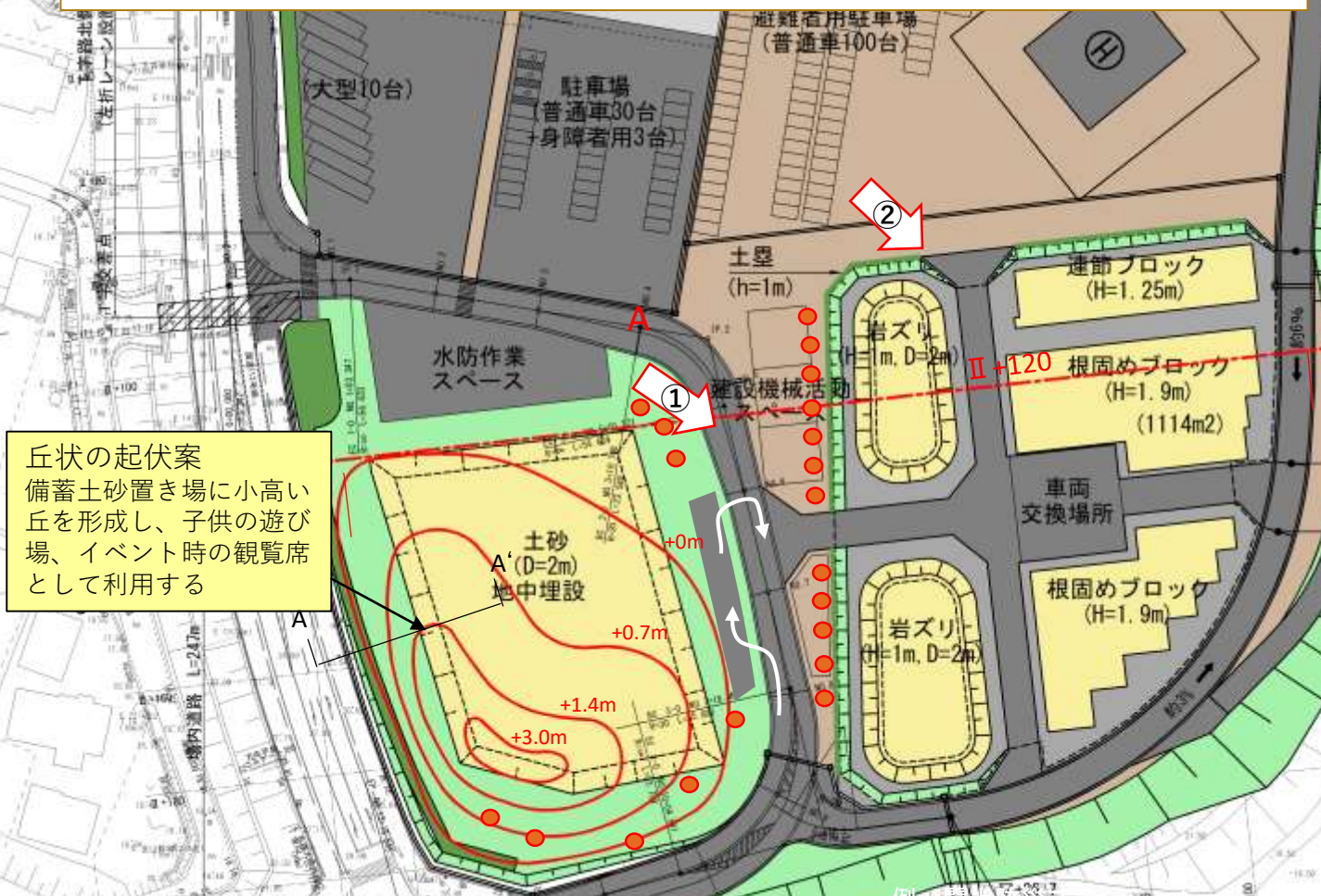
地盤高レベル、土塁・高木なし



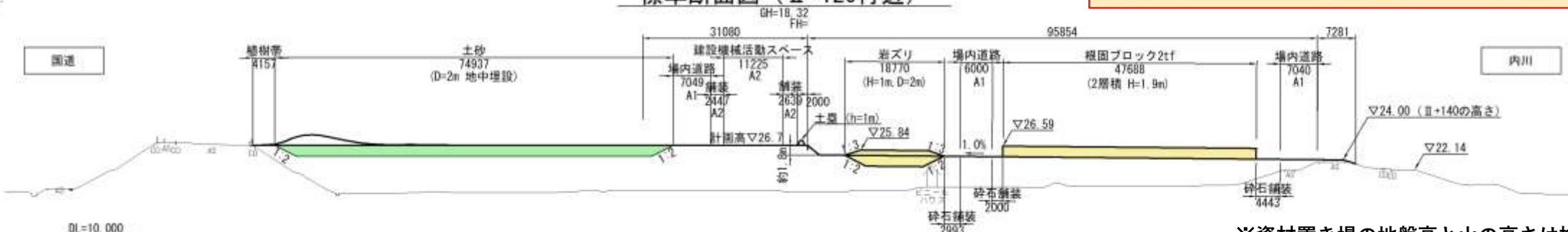
地盤高-1.8m、土塁・高木あり



丘状の起伏案
備蓄土砂置き場に小高い丘を形成し、子供の遊び場、イベント時の観覧席として利用する



標準断面図 (II+120付近)



※資材置き場の地盤高と山の高さは検討中

(4) かわまちづくり計画の検討 (①阿武隈ライン舟下り拠点の整備)

丸森町のかわまちづくりは、次の2つの事業を想定
①阿武隈ライン舟下りの拠点整備
(階段護岸、大階段、スロープ、ポケットパーク、散策路、サインなど)
②かわみなとフットパスの整備
(散策路、サイン、階段護岸、スロープ、ポケットパーク、 など)
そして「川風トレイル」の活用につなげる

水防センター・観光交流センター

- ・防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、サウナ、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
- ・敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

川の駅 河川敷公園としての利用

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線 (階段・スロープ)

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

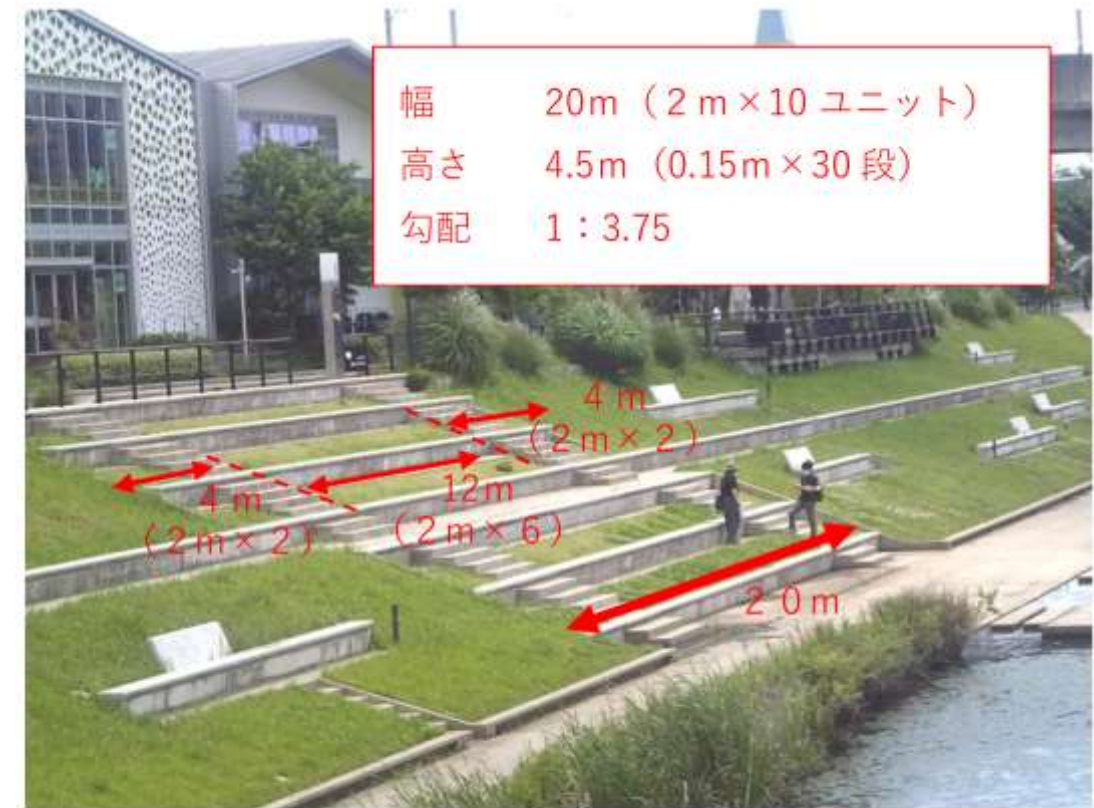
阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

(4) かわまちづくり計画の検討 (大階段のデザイン事例：柏の葉アクアテラス)

(大階段のデザイン：多機能の階段)

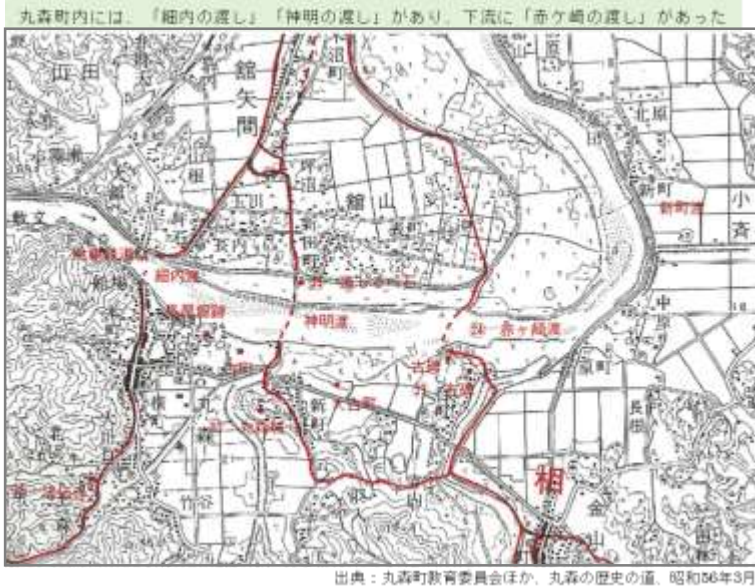
- 「川の駅」前面の大階段 (20m幅) は、アクセス・休憩・観覧席など多機能に利用できるデザインを検討する。
- その1例として、「柏の葉アクアテラス」 (千葉県柏市) を紹介する。
- 全幅は20m、両脇に幅2mで天端道路と水辺の散策路をつなぐアクセス階段がある。中央部の16mは、休憩やイベントで人が座りやすい高さ (0.45m) になっており、水辺のテラスの音楽会を楽しめる観覧席ともなる。



(4) かわまちづくり計画の検討 (②かわみなとフットパス)

(かわみなとフットパスの整備・活用)

- 丸森橋・丸森大橋、その間の左右岸・堤防を巡る「かわみなとフットパス」。約3km、徒歩で35分程度の距離、要所々々の解説を入れて1時間程度か。
- 新しく選奨土木遺産の記念碑が加わる予定。
- 町場の観光施設（斎理屋敷や八雄館）などとの連携を図り、町内のフットパス（まちなかフットパス）も検討する。



A河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場
 → B鳥屋館 → C船場地区（フラワーロード整備）
 → D丸森橋 → E姥石 → F丸森大橋 → A
かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)
 整備施設（案） 散策路、休憩スペース、眺望広場、
 フラワーロード（花壇）等



(4) かわまちづくり計画の検討 (③かわみなとフットパスの立ち寄り拠点「丸森橋の両端部」)

(丸森橋が選奨土木遺産に認定)

●土木学会により丸森橋が令和4年度の選奨土木遺産委選定された。

●丸森橋は、戦前に作られたプラットトラス道路橋として宮城県内に唯一現存している、石張りの橋脚も特徴的な貴重な土木遺産である。(1929(昭和4)年竣工)

(左右岸に丸森橋を眺める広場を検討)

●丸森町では、丸森橋が選奨土木遺産認定されたことから、歴史的価値を広く周知するとともに後世に伝えるため、右岸の橋詰に展望広場を検討する。

●また橋の歴史にもゆかりある左岸の弁天社付近には、橋の歴史を偲び、姥石や細内渡を眺める水辺の広場を検討する。

●かわまちづくりフットパスの立ち寄り拠点とする。

(整備メニュー)

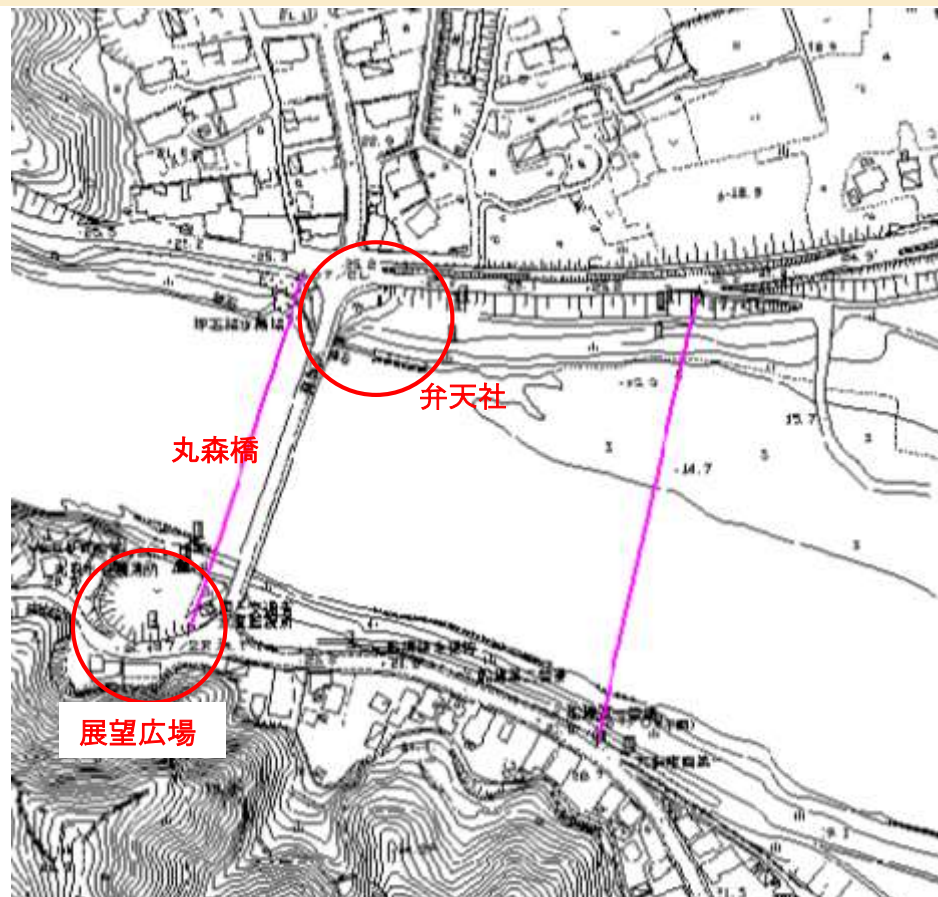
- 樹木伐採
- サインの設置
- 水辺へのアプローチ など



右岸から丸森橋を眺める



鳴子ダムの記念碑



丸森橋・弁天社位置図



検討部会による現地調査



弁天社からの眺望確保のための検討



(5) かわまちづくり計画の活用 (川風トレイル)

(ロングトレイルへの展開)

●トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、「みちのく潮風ルート」など他のルートとの広域連携を図る。

川風とれいる 約00km(徒歩約00時間00分)

- A 丸森駅 → B 大楯館跡・坪石 → E 姥石・土木遺産 →
- D 丸森橋 → C 河川運動公園 (舟運) → B 鳥屋館 →
- A 河川防災ステーション → F 丸山館跡 → G 台町古墳群 →
- H 桜つつみ公園 → A → 周遊バス → A

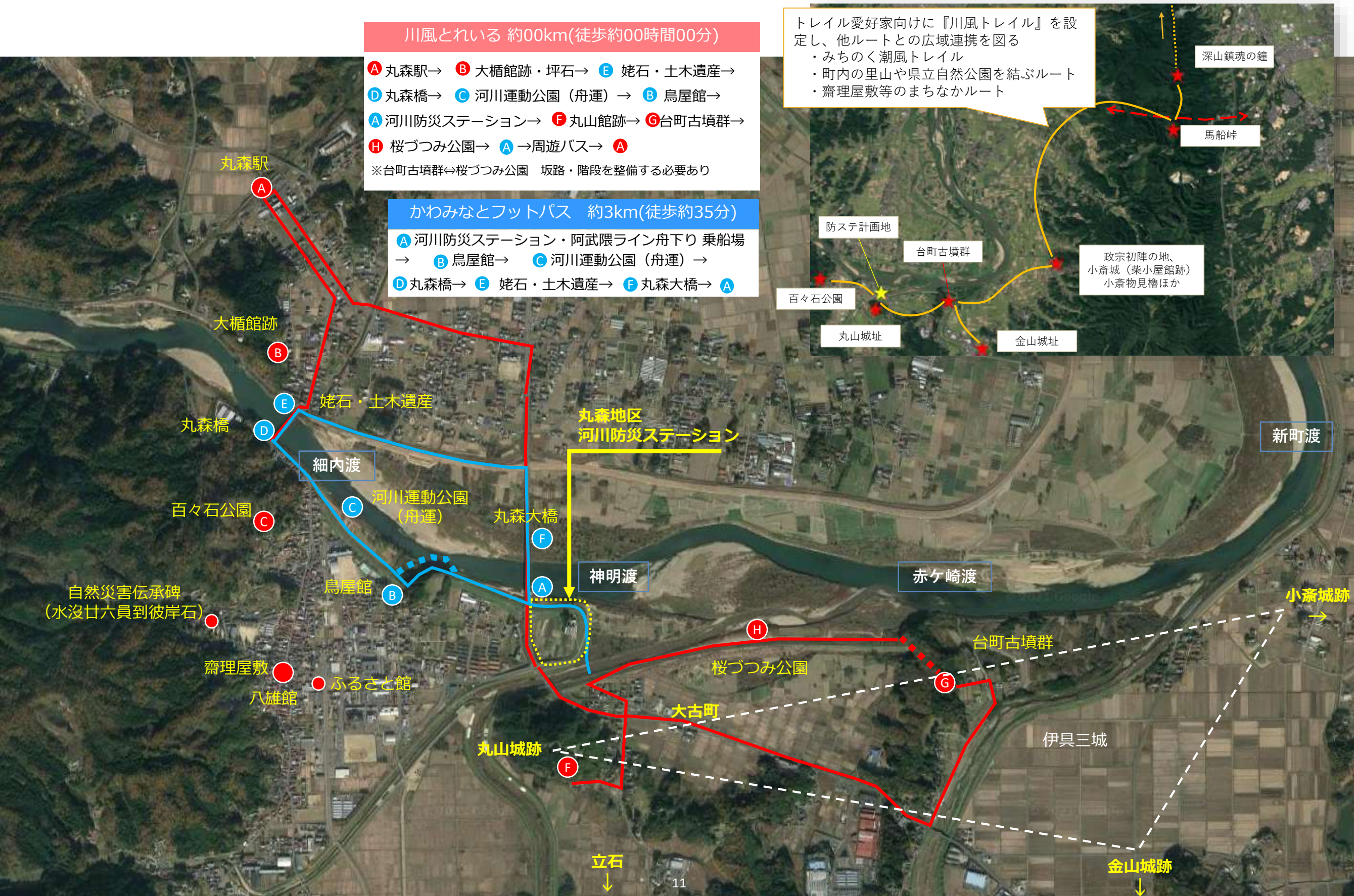
※台町古墳群⇄桜つつみ公園 坂路・階段を整備する必要あり

かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)

- A 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場 →
- B 鳥屋館 → C 河川運動公園 (舟運) →
- D 丸森橋 → E 姥石・土木遺産 → F 丸森大橋 → A

トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、他ルートとの広域連携を図る

- ・みちのく潮風トレイル
- ・町内の里山や県立自然公園を結ぶルート
- ・齋理屋敷等のまちなかルート



(5) かわまちづくり計画の活用 (サイクリング等)

サイクルターミナルを起点に、電動キックボードも利用できるようなサイクルコースを検討し、サイクリスト以外の集客も図る。また、町内の防災施設をコースに入れることで災害記憶の伝承・防災学習につなげる。内川や新川にある桜づつみ公園と連携したお花見の拠点としての活用など。

至 角田市 至 角田市 至 角田市



サイクルイベント例



近隣のサイクルターミナル

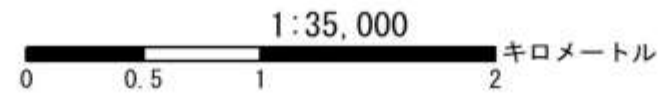
拠点名	仙台国際空港サイクリングポート	名取市サイクルスポーツセンター
宿泊	—	●
食事	●	●
レンタサイクル	—	●
ロッカー・シャワー	●	●
メンテナンススペース (工具貸出)	●	●
手荷物預かり	●	●
自転車受取・発送	●	(●)
温泉	—	●
駐車場	●	●
その他	ランナーズポートを併設	場内に1周4kmのサイクリングロード

サイクルターミナル【事例写真】



輪行箱が入る大きさのサイクリスト用ロッカー (仙台空港)

至 いきいき交流センター



(5) 対岸高水敷の樹木伐採

対岸の高水敷の眺望確保、利活用に向けた樹木伐採について、令和5年度より着手している。

昨年度の検討内容

対岸高水敷の樹木伐採

防ステから対岸への良好な景観を復活

高水敷の樹木は、環境面の機能（生態系保全、景観形成）に加え、治水上の問題（流下能力の低下、偏流や高速流の発生の要因となる）にも関わる。

河川管理者による伐採・維持管理の他、近年は、伐採や再繁茂抑制に繋がる高水敷の利用において、民間活力を導入している事例もある。

樹木伐採時には、堤内民地での耕作を含めた防ステからの見えに十分配慮する。

民間による利用（例）

- ・ 樹木の再繁茂抑制のため、牧草生産地として利用する
- ・ 樹木の再繁茂抑制のため、マレットゴルフ場等として、日常的に住民が利用する
- ・ 樹木の伐採や重機の操縦等、防災に関するイベント・ワークショップのフィールドとして利用する



樹木伐採の立会確認箇所（令和5年6月）



高水敷の樹木伐採について

(R5.6.23) 丸森町総務課/仙台河川国道事務所 角田出張所 打合せ資料

① このエリアの樹木についても、できる限り伐採してほしい。

② この樹木については、運動公園の景観上、残してください。

③ 樹木を残すエリア
現地調査を行い、残す樹木にテープでマーキング済み（15本）。

④ 民地の伐採エリア
所有者から内諾済み。

マーキング

※枝分かれしている樹木は、マーキングした幹だけでなく、根元から残してください。

第3回丸森地区河川防災ステーション利活用検討委員会の意見と対応

大項目	小項目	意見	対応
1. (仮称)川の駅の整備方針	(1)建築ブロックプラン	<p>【プロポーザルによる設計者の選定】</p> <p>○基本設計、詳細設計を発注される時は、価格競争のみに終始しないよう外部有識者が入ったプロポーザルをお願いします。外部有識者は当初から公表し、良い提案が集まるプロポーザルにしてください。</p> <p>【2階の防災学習スペースへの案内】</p> <p>○防災学習スペースが2階の一番奥側にある。2階建ての建物で、1階の入り口で階段が見えないので、2階に上がるイメージがわからないため配慮をお願いします。</p>	<p>○建築プロポーザルの参考にさせていただきます。</p> <p>○建築プロポーザルの参考にさせていただきます。</p>
	(2)防災井戸の整備	<p>○国交省をお願いします。ここは防災施設なので、(非常時に水を確保するため)井戸を掘りたい。ここが防災ステーションでなければ、堤防定規の断面や2Hルールを考えて、可能な場所には井戸が掘れるが、今回、盛土して防災ステーションにするため、全部が河川区域になる。河川区域に井戸を掘るといふ、管理側からすると簡単に承認し難い案件になると思います。何かのときに水があるというのはすごく大事だと思っています。ぜひ内部で調整いただき、(井戸を設置できるよう)お願いしたいと思います。</p> <p>●私も防災井戸は大変いいなと思っています。平野委員が心配されているとおり、河川区域であるということも確かです。私たちは井戸の水がどこの水であるかが一番議論になります。川の水を取水しているのか、地下水を取水しているのかによって違いますので、どこの水を取るかについて相談させていただければと思います。(国交省)</p>	<p>○今後、国交省と協議して進めます。</p>
	(3)災害用トイレの整備	<p>○防災ステーションは避難場所という位置づけにもなります。電源が喪失して、水も来ないという時、一番何が大変だったかというトイレの問題です。下水につないでいるからいいとされますが、今回の丸森でも対応に大分苦労されたのではないかと考えております。人が集まってくる防災ステーションについては、日頃の訓練も含めて「くみ取りのトイレ」を簡易的につくるのが考えられます。そういうものを兼ね備えた形がいいと思います。</p> <p>○建物にトイレを今の計画どおり造った上で、オプションとしてトレーラートイレがあってもいい。建物内のトイレも含めて本当に使えなくなるかもしれない。余分にトイレがあることには誰も文句言わないのではないかと思いました。(トレーラートイレで)北海道の皆さんにお世話になったので、恩返しができるような体制づくりも考えていただきたい。</p> <p>○移動トイレの考え方ですが、この施設だけに移動トイレをやるのはかなりもったいないと思うので、丸森町全体の防災を考える、もしくは山元町との連携でトイレを共同運用するというような形を考えてほしい。津波災害のとき山元町で被害が出たときにはそっちに持っていく、風水害があったときは丸森町で利用するというような形で相互利用・運用だったら可能ではないかと思っています。</p>	<p>○台風19号では、水道が止まってしまい、下水が使えなかったことが大きい要因です。(バケツ等で水を流せば使うことができました)</p> <p>○発災後リース会社等との協定を強化し、簡易トイレの設置が可能となっていることから「くみ取りトイレ」を簡易的に作るというのは難しいと考えます。</p> <p>○トレーラートイレは、防ステだけではなく町全体の防災体制(災害応急対応)の中で検討します。</p>
2. 河川防災ステーションの施設レイアウト	(1)備蓄資材置き場の目隠し	<p>●どの角度から見ても見えなくするように頑張っているように聞こえる。イベントをやる際に見えてはいけない角度があり、そこから見えるときには気にするということが十分かと思っています。多分防災ステーションという看板が上がるはずで、備蓄もあるということも書いてあるはずなので、ある程度許容していただいてもいいかなと思います。見えないのがいいのか、備蓄資材があるのがいいのか、いろいろ考え方があると思います。(国交省)</p> <p>○全て隠す必要はなく、防災学習として重要です。一般の人たちに、(ブロックや岩ズリが)どういうものかというのがしっかり分かるように見せて、意味をしっかりと伝えるのがよいと思います。配置を考えて、見られる場所、見られない場所の区別をしていただきたい。</p> <p>○とてもではないけれども、隠し切れるものではないので、部会では左側の芝生広場のほうから見えないように工夫しようと考えました。ヘリポートのほうからは見えてもしかたがないけれども、薪置場とか少し入れて緩和することはできだろうと議論しました。南側からは丸見えだと思います。防災学習で来られた方は、北側のヘリポートのほうから案内するとか、両方の使い方ができるようには考えています。</p>	<p>○現状の考え方で資材置き場の設計は進めます。</p> <p>○防災学習の際の資材置き場の見せ方については検討します。</p>

大項目	小項目	意見	対応
2. 河川防災ステーションの施設レイアウト	(2)備蓄資材置き場の災害時の利用	<p>○(備蓄資材置き場の)1.8メートルは結構な高低差です。水が入ってきた場合の作業効率とか考えていただく必要があると思います。さらなる検討をお願いしたい。</p> <p>○ベシックなところは守りながら、見えない・見えにくくする工夫を一緒にやっている。真ん中の通路みたいなどは少し法面が出る。岩ズリを取るときは、作業効率が少し悪くなる可能性はあります。しかしショベルとかブルの世界なので、大丈夫だと考えています。やっぱり日常利用がほぼ全てで、何年かに一度緊急利用するということになるので、少しだけ日常利用にウエートを置いています。ほぼ非常時利用も大丈夫だけれども、道路の取り付けはオペレーターの技量に依存している造成計画になっています。</p> <p>●資材置き場のほうは確かに少し段差ついていますが、舗装された道路で降りられます。排水については多少たまるかもしれませんが、作業上問題はないと思います。(国交省)</p>	○現状の考え方で資材置き場の設計は進めます。
	(3)植栽の整備	<p>【シンボルツリー】</p> <p>○平常時の利用はアトリウムで日陰をつくるということになっています。ヘリポートの関係もあって、あまり高い木は植えられないかと思いますが、常緑で高木のシンボルツリーを植えてほしい。イベントの時の日陰をつくってあげるのがいいと思います。</p> <p>○高木の話はまさに私もそのとおりだと思っております。建物の際であれば高木はあると思います。ヘリポートの規制が斜めに入っていますので、幾つか高木を植えられるところをぜひ検討いただきたい。砂山のところと、あと建物際にもう一本ぐらいあるといいです。</p>	○シンボルツリーの整備(配置、樹種など)について検討します。
		<p>【イグネ】</p> <p>○(西側の道路沿いの)イグネのようにする部分はぜひやっていただきたい。そっちは育てていけばいいと思う。将来的に西日を遮ってくれるといい。</p>	○イグネの整備(配置、樹種など)について検討します。
3. かわまちづくり計画の検討	(1)船着場	<p>【階段護岸】</p> <p>○(船着き場は)この状態ですと本流がそのまま来て、船が留めておかれなくなる。船頭が要望していた流れを止める突き出しを検討していただきたい。</p> <p>○今の階段護岸は、多分100mぐらいあると思うのです。やはりこれだけ広いとステーションのほうから北側を見たときに景観がよくて、広くていいなというふうに思います。</p> <p>●規模や機能はまだ検討中です。これからです。したがって、この形になるとも、別な形になるとも、現段階では言えないです。(国交省)</p>	○今後、地元要望を踏まえ、かわまちづくり事業の具体化の中で検討を進めます。
		<p>【航路の維持浚渫】</p> <p>○この川の中にある橋のピア、ここのところで川の水が分かれて、その下流の辺に砂利が堆積します。船のスクルーにひっかかったりするので掘削のご検討をお願いします。</p> <p>●かわまちづくりを早めに具体化していきたいと思っています。かわまちづくりの中で議論されて、施設が必要だと皆さんの意見が出てきて、あとは役割分担をどうするかということになってくると思っています。例えば護岸までは国でやります、堆積する土砂の撤去は河道整備として必要でなければ、やはり国でやるのは難しいので、お願いすることになります。(国交省)</p> <p>●極端な話ですが、砂利業者さんに一緒に入ってもらって、かわまち事業で取り組むという手も考えられます。堤防に近いところは取れませんが、「そうでないところで砂利採取をしたい」、「しっかりと賦存量もある」、そういう整理をして協議をしなければ駄目です。そういう手もなきにしもあらずということです。(国交省)</p>	○今後、地元要望を踏まえ、かわまちづくり事業の具体化の中で検討を進めます。
		<p>【水制工の整備】</p> <p>●水制工については、国として川の流れを変えなければいけないとなればやることも可能かもしれませんが。少しやってみて、こういうのがいいとか、その後護岸の法線どうするかとか、そういうのは要相談かと思えます。(国交省)</p>	○今後、地元要望を踏まえ、かわまちづくり事業の具体化の中で検討を進めます。
	(2)サイクリング	○サイクリングについて、遊砂地に自転車置き場をつくっていただければと思います。	○検討します。
(3)丸森橋(選奨土木遺産)	○県内にも幾つか土木遺産がある。特に旧鹿島台町にある大崎の明治潜穴は顕彰施設を造っています。丸森でも、顕彰施設を組み込めるといいなと思います。	○現在、整備を検討中です。参考にさせていただきます。	



— 目次 —

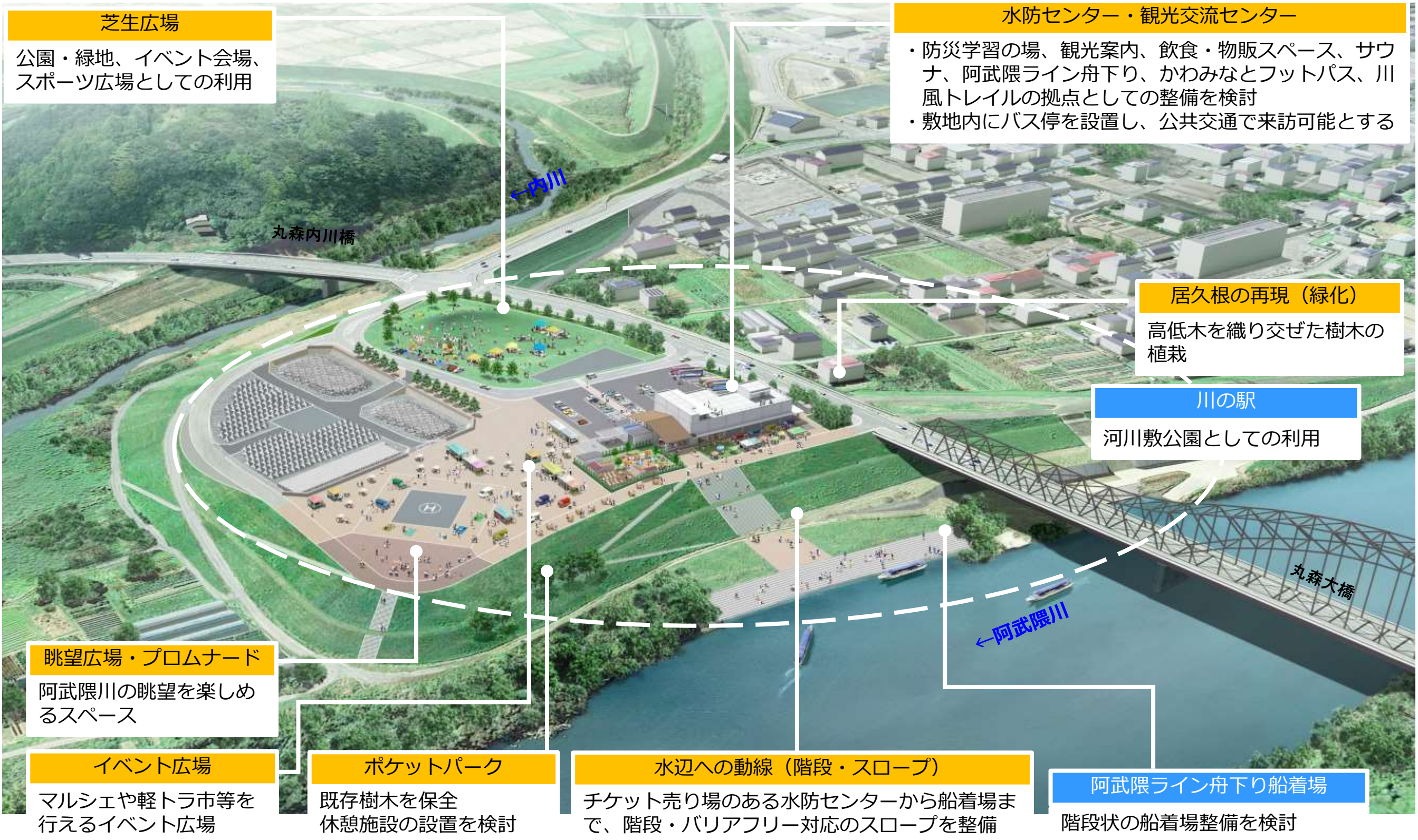
(1) 河川防災ステーションイメージパス	1
(2) 河川防災ステーションの施設レイアウト	3
(3) かわまちづくり計画の検討	4
(4) かわまちづくり計画の活用	6
(5) 防災・防災学習	9

事業実施箇所(河川)-阿武隈川_08-AM10：48-900m_2023.08.02

令和5年10月2日
丸森町・国土交通省 東北地方整備局仙台河川国道事務所

(1) 河川防災ステーション イメージパース (平常時)

- ▶ 水防センターは、河川防災ステーションの防災機能を確保するとともに、町のゲートウェイとして観光交流センターおよび民間商業施設を整備。
- ▶ 水防センター周辺には、平常時のにぎわいを創出する空間、イベント広場、眺望広場を整備。また、芝生広場、資材置き場についても平常時利用に配慮した空間デザインを行う。
- ▶ 周辺には周遊につながる機能として、阿武隈ライン舟下りの船着き場やフットパスの拠点、ルートを整備。



芝生広場

公園・緑地、イベント会場、スポーツ広場としての利用

水防センター・観光交流センター

- ・防災学習の場、観光案内、飲食・物販スペース、サウナ、阿武隈ライン舟下り、かわみなとフットパス、川風トレイルの拠点としての整備を検討
- ・敷地内にバス停を設置し、公共交通で来訪可能とする

居久根の再現 (緑化)

高低木を織り交ぜた樹木の植栽

川の駅

河川敷公園としての利用

眺望広場・プロムナード

阿武隈川の眺望を楽しめるスペース

イベント広場

マルシェや軽トラ市等を行えるイベント広場

ポケットパーク

既存樹木を保全
休憩施設の設置を検討

水辺への動線 (階段・スロープ)

チケット売り場のある水防センターから船着場まで、階段・バリアフリー対応のスロープを整備

阿武隈ライン舟下り船着場

階段状の船着場整備を検討

(1) 河川防災ステーション イメージパース (災害時)

- 水防センターは、水防団、国交省、緊急消防援助隊、自衛隊などの会議場所や待機場所として利用。
- 備蓄資材置き場では岩ズリ・連節ブロック・根固めブロックの取り出し、土砂置き場では土砂の取り出しが行われ、被災箇所へ搬出される。ヘリポートはケガ人などの搬送に利用される。
- 災害時の一時避難場所として、避難者が広場に車両避難し、水防センターのトイレ等を利用する。



(2) 河川防災ステーションの施設レイアウト 備蓄資材置き場の修景デザインおよび土砂置き場のアースデザイン

- 備蓄資材置き場および土砂置き場については、平常時利活用に配慮したデザインとする。
- 1. 備蓄土砂を地中埋設としている箇所について、子どもの遊び場となるように起伏をつけた仕上げとし、ところどころに緑陰を設ける。
- 2. 観光交流施設の平常時利活用のため、資材置き場は地盤を下げ、手前に土塁を設けることで備蓄資材を目隠しする。樹木、薪置き場やフェンスの設置を含め、そのデザイン性に留意する。

備蓄土砂の仕上げ

- ◆ 備蓄土砂は、地中に埋設し、上面を平常時利用可能としている。非常時の作業を考慮し、場内道路側と備蓄土砂周回には重機が走行可能なトラфикаビリティを確保する。
- ◆ 備蓄土砂及び周辺の起伏形状について、案（下図黄色）を示す。上面の利用用途にあわせて「**平場の確保が必要な面積**」を決定したうえで起伏形状を検討する。

備蓄資材置き場の目隠し

・視点場①

地盤高レベル、土塁・高木なし



地盤高-1.8m、土塁・高木あり



・視点場②

地盤高レベル、土塁・高木なし

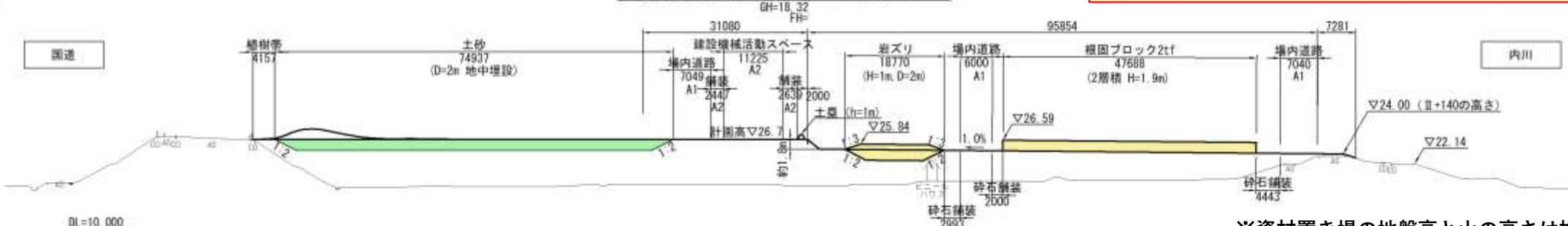


地盤高-1.8m、土塁・高木あり



丘状の起伏案
備蓄土砂置き場に小高い丘を形成し、子供の遊び場、イベント時の観覧席として利用する

標準断面図 (II+120付近)

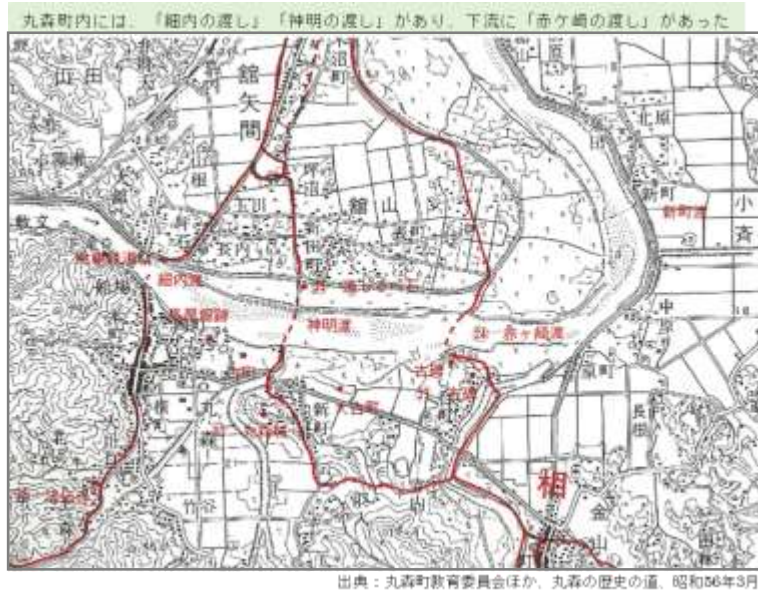


※資材置き場の地盤高と山の高さは検討中

(3) かわまちづくり計画の検討 (かわみなとフットパス)

(かわみなとフットパスの整備・活用)

- 丸森橋・丸森大橋、その間の左右岸・堤防を巡る「かわみなとフットパス」。約3km、徒歩で35分程度の距離、要所々々の解説を入れて1時間程度か。
- 新しく選奨土木遺産の記念碑が加わる予定。
- 町場の観光施設（斎理屋敷や八雄館）などとの連携を図り、町内のフットパス（まちなかフットパス）も検討する。



A 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場
 → B 鳥屋館 → C 船場地区 (フラワーロード整備)
 → D 丸森橋 → E 姥石 → F 丸森大橋 → A
かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)

整備施設 (案) 散策路、休憩スペース、眺望広場、
 フラワーロード (花壇) 等



(3) かわまちづくり計画の検討 (かわみなとフットパスの立ち寄り拠点)

(丸森橋が選奨土木遺産に認定)

- 土木学会により丸森橋が令和4年度の選奨土木遺産委選定された。
- 丸森橋は、戦前に作られたプラットトラス道路橋として宮城県内に唯一現存している、石張りの橋脚も特徴的な貴重な土木遺産である。(1929(昭和4)年竣工)

(左右岸に丸森橋を眺める広場を検討)

- 丸森町では、丸森橋が選奨土木遺産認定されたことから、歴史的価値を広く周知するとともに後世に伝えるため、右岸の橋詰に展望広場を検討する。
- また、橋の歴史にもゆかりある左岸の弁天社付近には、橋の歴史を偲び、姥石や細内渡を眺める水辺の広場を検討する。
- かわまちづくりフットパスの立ち寄り拠点とする。

(整備メニュー)

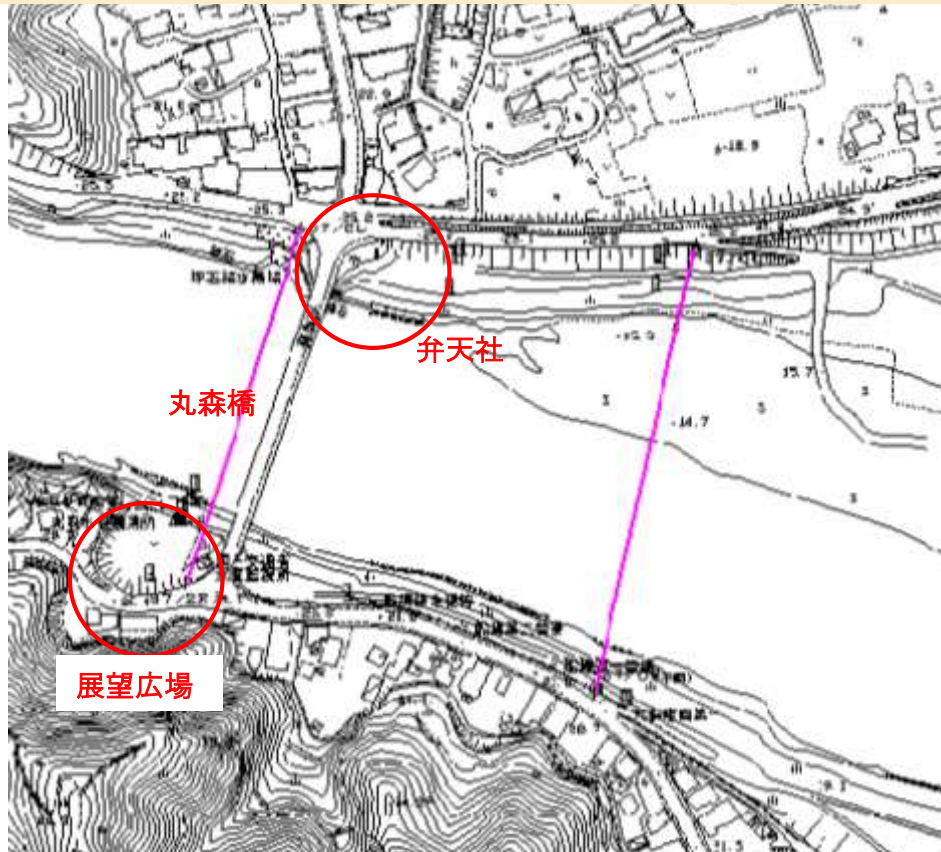
- 樹木伐採
- サインの設置
- 水辺へのアプローチ など



右岸から丸森橋を眺める



鳴子ダムの記念碑



丸森橋・弁天社位置図



検討部会による現地調査



弁天社からの眺望確保のための検討



(4) かわまちづくり計画の活用 (川風トレイル)

(ロングトレイルへの展開)

●トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、「みちのく潮風トレイル」など他のルートとの広域連携を図る。

川風とれいる 約00km(徒歩約00時間00分)

- A 丸森駅 → B 大楯館跡・坪石 → E 姥石・土木遺産 →
- D 丸森橋 → C 河川運動公園 (舟運) → B 鳥屋館 →
- A 河川防災ステーション → F 丸山館跡 → G 台町古墳群 →
- H 桜つつみ公園 → A → 周遊バス → A

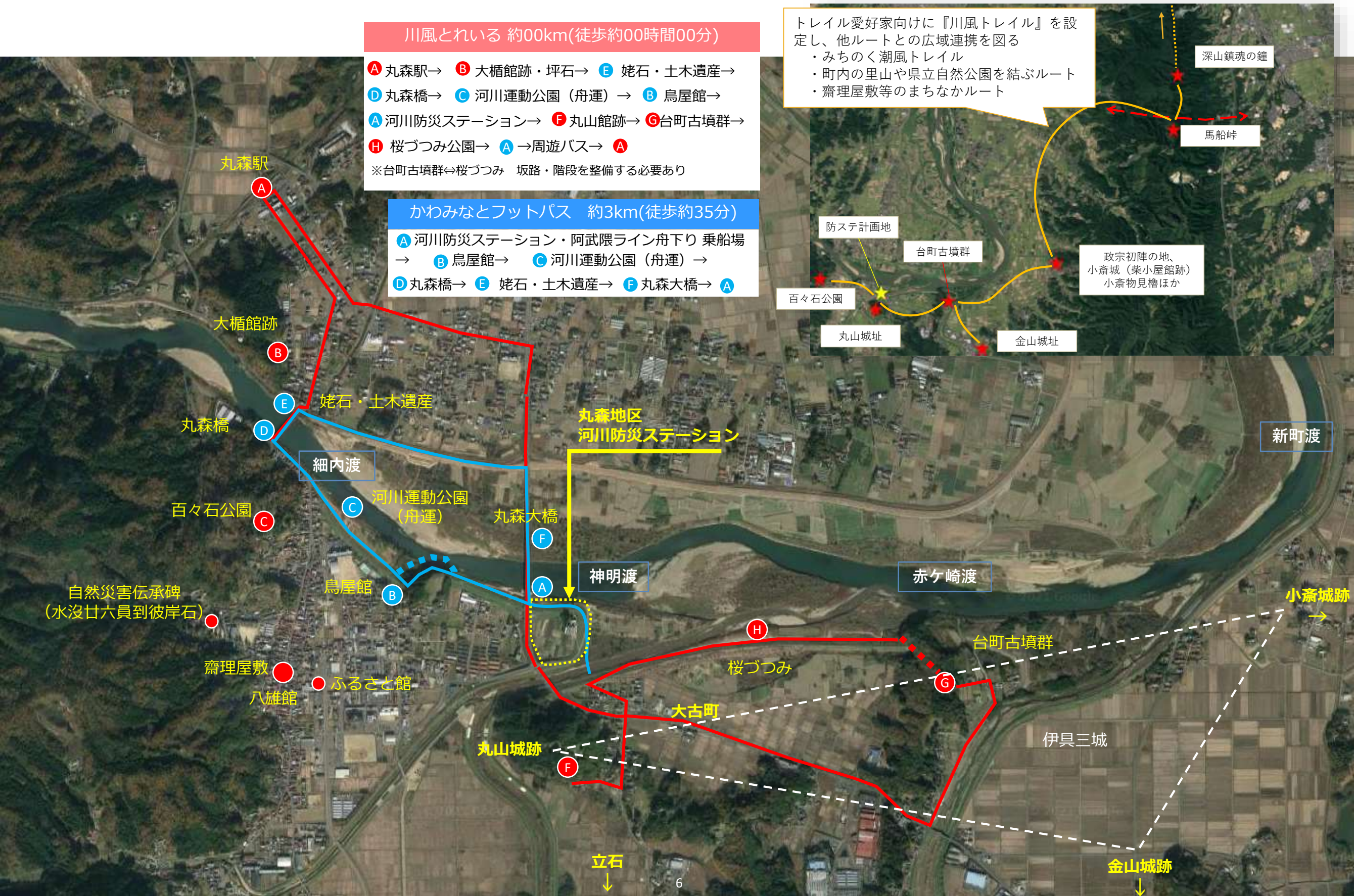
※台町古墳群⇄桜つつみ 坂路・階段を整備する必要あり

かわみなとフットパス 約3km(徒歩約35分)

- A 河川防災ステーション・阿武隈ライン舟下り 乗船場 →
- B 鳥屋館 → C 河川運動公園 (舟運) →
- D 丸森橋 → E 姥石・土木遺産 → F 丸森大橋 → A

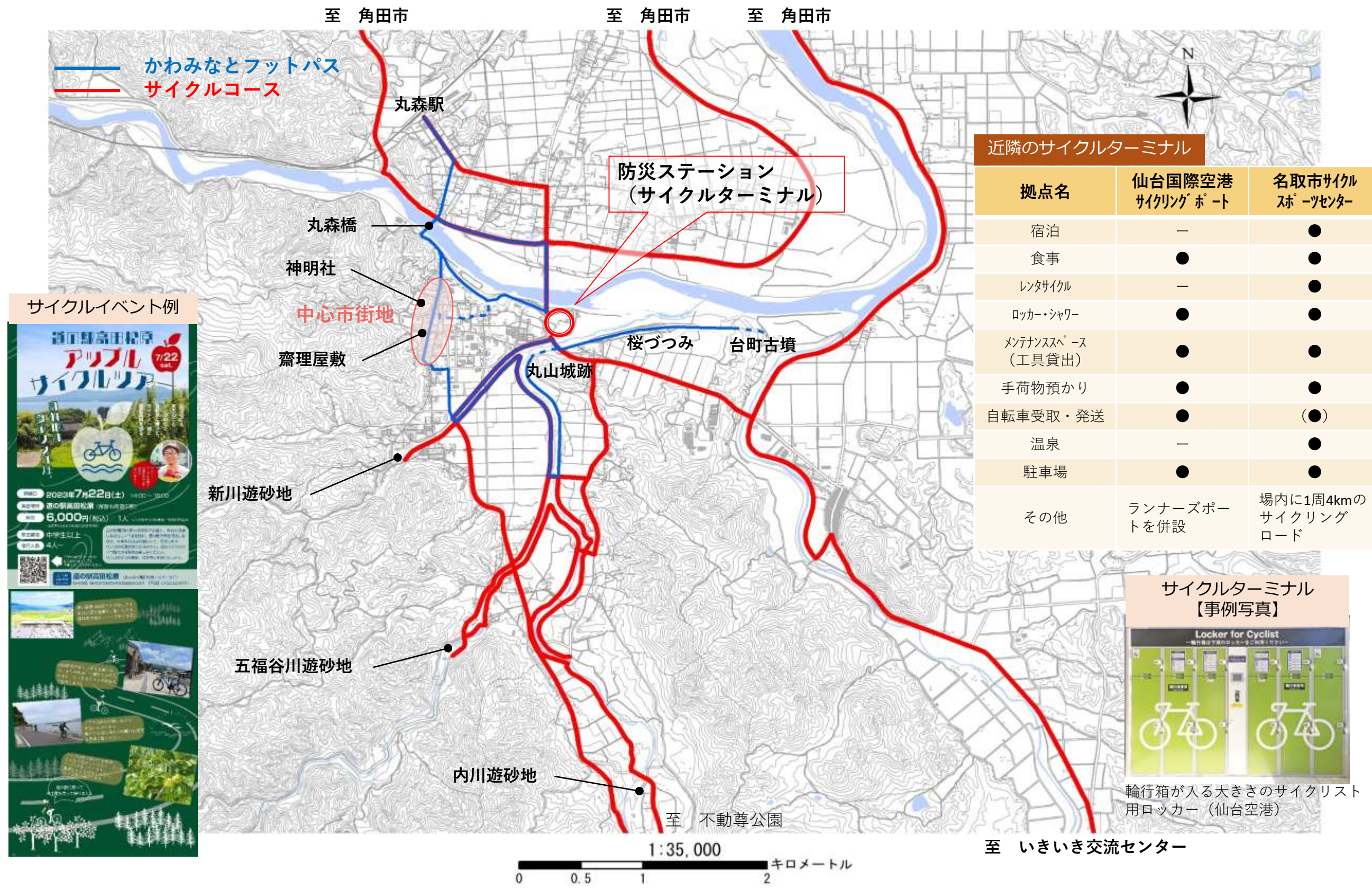
トレイル愛好家向けに『川風トレイル』を設定し、他ルートとの広域連携を図る

- ・みちのく潮風トレイル
- ・町内の里山や県立自然公園を結ぶルート
- ・齋理屋敷等のまちなかルート



(4) かわまちづくり計画の活用 (サイクリング等)

サイクルターミナルを起点に、電動キックボードも利用できるようなサイクルコースを検討し、サイクリスト以外の集客も図る。また、町内の防災施設をコースに入れることで災害記憶の伝承・防災学習につなげる。内川や新川にある「桜づつみ」と連携したお花見の拠点としての活用など。



近隣のサイクルターミナル

拠点名	仙台国際空港 サイクリングポート	名取市サイクルスポーツセンター
宿泊	—	●
食事	●	●
レンタサイクル	—	●
ロッカー・シャワー	●	●
メンテナンススペース (工具貸出)	●	●
手荷物預かり	●	●
自転車受取・発送	●	(●)
温泉	—	●
駐車場	●	●
その他	ランナーズポートを併設	場内に1周4kmのサイクリングロード

サイクルイベント例



サイクルターミナル【事例写真】



輪行箱が入る大きさのサイクリスト用ロッカー (仙台空港)

(4) かわまちづくり計画の検討（かわみなとフットパスほか）

（土砂仮置き場の整備・活用）

- 現在、河川防災ステーションの造成のため、土砂仮置き場が内川沿いの河川敷地に設けられている。造成が終われば平坦地として新たな利用の可能性がある。
- 「健康とアウトドア」にふさわしいレクリエーション利用やイベント時の臨時駐車場、消防団（水防団）の訓練場所としての利用が考えられる。アイデアをいただきたい。

（かわみなとフットパスの整備・活用）

- 宍戸委員の提案「川風とれいる」では、「台町古墳群」までの川沿いの散歩道が提案されている。
- 内川への渡河橋の設置を含めた「かわみなとフットパス」の延伸を検討したい。
- 内川沿いには「桜つつみ」が整備されており、このエリアの再整備も検討の余地がある。



渡河橋の事例（仙台市荒川）

(5) 防災・防災学習

【検討する際のポイント】

- 沿岸部のような展示を行うと40～60万円/㎡くらいはかかってしまうので、知恵を絞る必要がある。

(1) 展示について

① 手作り防災展

- ・ 常設展示として子どもたちが作った作品を展示する。毎年実施し作品を入れ替えることで、保護者などの集客にもつながる。

② デジタルを活用した展示

- ・ 壁面に大型モニターを設置し、コンテンツを流す。コンテンツ制作には、多額の費用を要するので、今の内から宮城南部復興事務所を巻き込んで、協力してもらうことも必要。

(2) ワークショップでの利用

- ① 防災に関するワークショップを開催できるようスペースを設ける。(可動式パーテーション)

- ② 防災に関する町の会議や研修もここで開催することで、防災意識の向上も図ってはどうか？

(3) 防災学習施設としてのテーマ・コンセプト

- ① 例えば、「成長する防災施設」～東北大学災害科学国際研究所と連携～ など。

- ② 防災学習施設として、どこにターゲットを置くかで内容が大きく変わってくる。

- ・ 町外か町内か？ (30：70)
- ・ だれを対象にするか。
- ・ 伝承との比率は (50：50か？)。可動式パーテーションで変更も可能。



せんだい3.11メモリアル交流館



ミドリ安全いわき支店の「防災モデル展示」



大船渡市防災観光交流センター（おおふなぼと）

(5) 防災・防災学習

「地域連携型防災体制等構築推進事業」における実践推進協力校の試み（令和3年度・令和4年度）



丸森未来防災フェスタの様子1



丸森未来防災フェスタの様子2

2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップの等の実施

- (1) 震災遺構「中浜小」の見学
- (2) 防災だよりの発行
- (3) 丸森未来防災フェスタ
5・6年児童が地域へ向け発表しました。
実践研究1年目の取組について（展示）
防災グッズの展示
地域住民と連携してフェスタを開催した。



防災展示コーナー



実践研究について

令和4年度 ぼうさい甲子園 はばたん賞 受賞
(<http://bousai-koushien.net/1846-2/>)

防災学習に関する意見（住民説明会より）

- ・防災かまどベンチ。普段は公園のベンチとして使い、椅子を上げると「かまど」になる。炊き出しの訓練や東北の文化となっている芋煮会など、を通じて参加者同士がコミュニケーションできる訓練ができればいいのでは。
- ・普段から人が集まり、利用しやすい工夫。防火かまどベンチは、平時は使えないようなところもある。普段から使えないと災害時に使えない。子供たちの防災キャンプなど、学習の場としても平時から使える工夫が必要と思う。
- ・防災学習は知ることだと思う。丸森で起きた災害を分かりやすく展示したりすることも必要だと思う。
- ・防災には情報収集が大事である。国、県、町では、インターネットを通じた分かりやすい情報を発信しているが、見れない住民も多くいる。こういった情報を住民が自ら入手できるような防災学習も必要ではないか。
- ・展示室は、写真や記録の展示もいいが、子供たちの体験として、土のうをつめる、一輪車をつかう、バケツリレーをしてもとか防災の知識を実体験できるようにし、年一回、これらを取り入れた防災運動会をやるなど、マスコミが食いつき、町外の人々が丸森に行ってみたくとなれば、子供たちといっしょに大人もくる。キッズパークの防災版のような体験施設になればとも思います。
- ・定期的開催するマルシェや軽トラ市などのイベントの際に、重機の体験学習を取り入れることも考えられる。

防災学習展示の事例（宮城南部復興事務所 制作）



防災学習用DVD



防災学習用立体地図

防災学習の事例



防災学習（他事例）



水防活動訓練（他事例）



イベント（防災フェスタ）